

老朽化で解体、竜ヶ崎一高の講堂

明治37年に建てられた県立竜ヶ崎一高の講堂（同校提供）



講堂の内部に施された装飾建材や屋根に設けられた洋風の鬼瓦、旧制中学だった時代の正門表札など計8点を教室に展示する。これまで同校の倉庫に保管されていた。

2年生の男女4人が中心となり、3年生や定時制の生徒ら12人の協力を得て、準備を進めている。指導にあたっている教員の小野威人さん（49）が今年2月ごろ、生徒に「歴史を深く学んでみないか」と呼び掛けたのが始まり。

講堂が建設されたのは、明治37年。全長は約25メートル。

老朽化に伴い、昭和55年に解体された県立竜ヶ崎一高（龍ヶ崎市平畑）の講堂の一部が、6月4日開催の同校文化祭「白龍祭」で公開される。2年生の有志が企画した。洋風建築の由緒ある建造物だが、存在したこと自体知らない生徒は多い。講堂に親しんだ卒業生には懐かしさ、在校生には新鮮な展示となりそうだ。

（海老原由紀）

由緒ある洋風建築 後世に伝えたい

国の重要文化財に指定された土浦市の旧土浦中（現土浦一高）本館、常陸太田市の旧太田中（現太田一高）講堂と同じく、建築家の駒杵勤治（きまはつ）の設計とされる。

小野さんによると、土浦、常陸太田両市の文化財2件と同時期の建造物にもかかわらず国が文化財指定を受けていないのは、老朽化が激しかったことが大きいという。

さまざまな用途で利用されてきたが、昭和55年12月に竜ヶ崎一高の創立80周年に合わせて解体された。正面玄関を同校の旧図書館に移築した経緯もあるが、旧

図書館は昭和63年3月に取り壊された。

卒業生への聞き取りをした2年の樽井京也さん（16）は「内部の構造をしっかりと覚えていた人もいたもので、講堂は特別な存在だったんだと感じた」と話す。3年の藤田悟瑠さん（17）は「講堂があった事実は、竜ヶ崎一高に通っている人でもごく一部にしか知られていない。文化祭を通して、多くの人に知ってもらいたい」と語る。

公開時間は午前9時～午後2時。教室では、講堂の写真や掲載した冊子100部を配布する予定だ。

生徒有志企画、文化祭で一部展示



講堂の一部展示に向け準備を進めている生徒ら
＝龍ヶ崎市平畑（海老原由紀撮影）